



学校だより

7 月 号
平成30年6月29日
横浜市立屏風浦小学校
校長 海老原 眞

「靴をそろえる」

副校長 田島 良子

ある日の放課後。職員玄関に、一人男の子が訪ねてきました。「宿題を忘れたので、教室に取りに行きたい。」とのことでした。こちらが了承すると、「ありがとうございます。」と、彼は言って、靴を脱ぎ、あがり、跪き、脱いだ靴をくるっと返し、そろえました。

この流れるような一連の所作に、彼の日常を見たように感じました。同時に、森信三氏の「しつけの3原則」を思い出し、そして、やっぱり、あの子に質問してみよう、と心を決めました。今学期の目標に、『靴をそろえる』と記していた、学校でただ一人のあの子に聞いてみたい。なぜ、それを目標にしたのかと。

「靴をそろえると、運動だけでなく、いろんなことにつながるからやるといい。」と、地域のスポーツクラブのコーチが言っていたから始めたとのことでした。

まず、靴を脱ぐと自分の靴をそろえ、いつの間にか玄関では、家族の分の靴をそろえる日もあると話してくれました。お家の人それぞれに気づいて、「ありがとう。」「えらいね。」と、声をかけてくれるそうです。コーチの言葉の通り、『靴をそろえる』という行動は、いろんなことにつながっていき、まだ、広がっていきそうです。

靴を脱ぐ場所は、社会と家庭との、あるいは、自分と他者との、いずれにせよ、一つの境界であることは間違いありません。そこで、『自分の足元を見直すこと』『気持ちを切り替えること』は、きっと、何か、大切な『間』になることなのでしょう。私も、この二人の少年に会ってからは、靴を脱ぐときは、足でそろえるのではなく、手でそろえることを始めました。

屏小の子どもたちは、家庭や学校だけでなく、たくさんの方からいろいろな言葉かけられて成長していることを改めて知り、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

昨年5年生が呼びかけた「GHB（ごみを減らす屏風浦小）作戦」にもご協力いただき、屏小の校庭の周りの道路から吸い殻が激減しました。子どもたちの言葉に、応えてくださる大人が確かにいることを、嬉しく思います。ありがとうございます。